

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表

事業所名 てらびあぽけっと鶴ヶ島駅前教室

公表日 R7年 9月 30日

利用児童数 39名 回収数 30件

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	30件					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	30件				・マンツーマンで対応していただいているのでありがたいです。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	30件				・個室がある為、切り替えがしやすくなっていると思います。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30件					
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29件	1件				それぞれの専門性を高めつつ、てらびあぽけっとのプログラムに基づいた支援を実施する為のスキルアップに努めています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27件	2件		1件		支援プログラムと普段の支援内容に相違がでないよう、今後も随時見直しを行っています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	30件					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	28件	1件		1件		保護者様分かりやすくお伝えしていける方法を検討していきます。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25件	5件				支援に入る職員が個別支援計画を確認できるよう、ファイルに入っていますが、定期的に実際の計画の目標につながっているかの確認は行っています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	26件	4件			・毎週同じ活動をしていて、ステップアップしているのか、わかりにくい。 ・子どものその日のやる気や気分によって、活動を変えてくれています。	同じ内容で継続して習得につなげていく課題もあれば、興味関心につなげて、工夫した内容で行うこともあり、様々ですが常にフィードバック等で課題の共有をし、共通理解の元、支援が行えるようにしていきます。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	11件	6件	6件	7件	・独自で行っている為、特に必要としていません。	教室内での個別支援が主な為、地域交流は行っておりませんが、Instagramやブログでは今後もこういった事業所が発信していきます。
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30件					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29件	1件				個別のフィードバックの時間を設けているのでその際に丁寧な説明を心掛けていきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20件	2件	1件	7件		本部が発信しているファミラジや家族支援動画のご案内は行っていますが、周知しきれていない為、今後積極的にご案内をし、ご家庭での関わりのヒントとなるよう取り組んでいきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	30件				・毎回、個別にお話しできる時間があるので、報告しやすいです。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	27件	2件		1件		ご希望があった際は、面談を実施しております。モニタリングだけでなく、ご希望があれば随時対応させていただきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29件	1件			・相談したことに対して具体的に助言を下さったり、療育に取り入れたりしてもらえるので心強いです。	保護者様がお話ししやすいような体制作りや、意識を持って今後も支援して参ります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7件	4件	5件	11件	・あったもいいのかと思うが、必要ないと思う方もいると思う。 ・個人的に交流会は望まない。	今年度、はじめて年長児を対象とした就学相談の保護者交流会を実施しました。お仕事をされていて都合がつかない方もいる為、色々な時間帯で今後も実施できるように検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23件			3件		契約時に必要に応じて面談を実施できることをお知らせしていますが、職員体制の都合でお待ちせしてしまうこともあり、より迅速に対応できるよう体制を整備していきます。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	27件	1件		1件	・コドモンの記載が簡潔なので、口頭で詳細にフィードバックが欲しい。 ・フィードバックの時間をしっかり取れている。	保護者アプリを4月から導入し、より時間の制限なくやりとりを行えるようになりました。アンケートなども手渡しからアプリになり活用しています。今後もしっかり伝達できるよう努めています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	28件			1件		不定期ではありますが、ブログやインスタグラムで発信しています。また、保護者アプリに必要な資料は共有をしています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28件			1件	・以前は、ホワイトボードの名札を見て「次のクールの子のものだな」と感じるものがあったが、今は時はない。	個人情報の取り扱いについて、今後も職員への研修・羞恥を徹底していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14件	5件	1件	10件		相談室にマニュアルは置いていますが、実施の有無について、きちんと保護者様に周知ができていなかったため今後お知らせしていくように改善していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10件	4件	2件	14件	・階段の上の立地が危なく難しそう。親が近くにいるので、問題ないと思う。 ・玄関の鍵だけでなく、室内の廊下や部屋にも鍵がついている為	年に2回訓練を実施しております。それ以外にも必要に応じて定期的に実施できるよう検討していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19件	1件		10件	・角のガードなどしっかりされている。	ヒヤリハットの確認を毎日終礼で確認、月一で安全点検をおこなっております。同クールに異年齢のお子様をお預かりしている為、案内面は今後也十分配慮していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21件	2件		7件		怪我が発生した際は速やかに保護者様にご連絡を行う体制を整えております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	29件	1件				信頼関係を築いた上で支援を行えることを常に念頭にお子様に接しておりますが、今後もお子様のご様子を共有しながら安心して通える教室作りに努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	27件	3件			・駅から教室までずすんで歩いてくれています。 ・行けば楽しいみたいだが、行くまでにてこずることがある。 ・楽しみに通えている。	お子様にとって無理な課題設定を行わずモールステップで段階づけた支援をすることで、楽しく通っていたできるよう取り組んでいます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	30件				・預けている間休めています。いつもありがとうございます。	今後よりご利用者様に通わせて良かったと思われる教室となれるよう、職員一同取り組んで参ります。

事業所における自己評価結果						
公表						
事業所名		てらびあぼけつと鶴ヶ島駅前教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		個室が4部屋あり、4名受け入れ時には十分な支援スペースが確保されている。 利用定員の確認、調整。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	急な職員の欠勤時には、ソーシャルセラピーで対応を行う、ご利用日の変更など、安全にお預かりできる方法をとっている。	基準の職員配置は守られているが、急な欠勤により、個別での対応が難しいこともある。一名は余裕を持って配置できるよう改善していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・ベビーゲートの設置。 ・絵カードなどの視覚支援の活用。	・トイレ前のみ段差があり、小さいお子様には危険な為、必ず職員見守りのもと、安全に移動するように今後も徹底していく。 ・大部屋に置いている玩具の内容など、適切であるか定期的に見直しを行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	7		・朝夕の清掃、玩具消毒の実施。 ・大部屋はマットを敷いて座って落ち着ける環境にしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・クールダウンが必要な児童の情報共有を行い、必要に応じて個室に入室を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		年間目標を設定し、その達成のための行動目標を掲げ、取り組んでいる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		年に一回、アンケートを実施し、職員会議にて改善策を話し合っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・職員面談、職員会議の実施	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4		現時点では実施していないが、必要に応じて検討をしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・本部実施の研修、その他自治体の研修への参加 ・教室内での研修実施	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	・てらびあぼけつと共通の支援プログラムを保護者にも保護者アプリで公表、常時閲覧可能とし、自治体にも届け出済み。	支援プログラムを公表していることを職員に周知できていなかった為、入職時研修の必須項目とし、毎年共有を行っていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	1	・モニタリング前の事前聞き取りはアンケート形式で行い、課題だけでなく他事業所や園の様子、保護者のニーズの把握に努めている。	保護者のニーズに対して現状のお子様のご様子との乖離がある場合の課題設定が難しく、子どもの今できるスモールステップでの課題設定の検討が必要。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	・会議では全員の意見を吸い上げにくい為、意見を記入してもらうようにしている。	面談が重なっている時期には、時間を確保することが難しい為、余裕を持った面談の実施を行っていく必要がある。また、意見を記入してもらった後の話し合いの時間についても確保していく必要がある。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	データファイルに支援計画ファイリングし、いつでも確認できるようにしている。	定期的に計画に沿った支援となっているかの確認を行う意識を全職員が持つようにしていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		行動記録シートの記入や、アセスメントシートの確認を行いつつ、必要に応じて専門職によるアセスメントを行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			計画には、5領域を入れているものの、そこを意識した支援の実施は不十分だと感じているので、随時ガイドラインを確認しながら目的を意識した支援を行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		担当制にせず、色々な職員が入ることで幅広い視点でお子様のご様子を把握できるように努めている。また、一人の主観が強くなりすぎないようハウスルールでチームで支援することを決めている。	複数でのプログラム検討ができていないこともある為、再度職員間で連携をとった支援の実施の徹底に努める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	2		職員間で定期的に、プログラム内容について適切かどうか見直しを行っていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	リズムウォーク・はじめの会・帰りの会以外的小集団活動の時間を作り、クールごとに児童に合った内容の活動を入れている。	小集団での活動内容の設定が難しいこともあるので、児童に負担のない範囲で今後も継続していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	朝礼での確認・報告の実施	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		終礼での確認・報告の実施	非常勤職員もいる為、時間の都合で共有しきれない部分もあるのが課題。全職員に共有漏れがないよう仕組化する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		個人ファイルにて毎回データ・支援内容の記録を取っている。	ABAを軸に行動分析を行い、適切な行動へとつなげていく支援の強化を図る為、本部研修やSVからの指導を受けていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	最低6ヶ月に一度、モニタリングを実施し、評価見直しを行っている。	

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達支援管理責任者が参加をしている。	必要に応じて、児童の状況をよく把握している職員の参加も検討していく。
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	必要に応じて柔軟に対応する体制は整っている。	求めに応じて対応しているが、教室側から積極的に連携を取ることができていないので、今後は積極的に行っていくと良いと感じる。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	保護者からの要望に応じて園との電話での情報共有、園訪問を行っている。	保護者のニーズだけでなく、必要と感じた時には連携可能か確認をし、つなげていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	保護者・相談員から依頼があった際、柔軟に対応をし情報共有をしている。	よりスムーズな移行に向け、保護者を介して積極的に情報共有を図りたいので、面談時等に保護者の意向を確認しておく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	29	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	30	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
	32	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	5		地域の児童発達支援センターとの密な連携は取れていないが、利用している児童も多いので連携は必要だと考える。
	33	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		地域交流は行っていないが、どんなことをしている場所なのか、気になっている方もいる為、SNSでの積極的な発信をしつつ、交流の機会も検討してみる。
保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		お迎え時にフィードバックの時間を作り、5～10分程度、その日の支援内容の共有や質問を受けたりしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	質問に対して職員間で共有して返答内容を検討してから保護者に伝えるようにしている。 毎月のてらほげだよりの発行 STだよりの発行	ペアレントトレーニングの実施には至っておらず、ご家族の困り感に対する支援が行き届いていないところもあるので、検討、職員のスキル向上が必須。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			支援プログラムについては、共有はしているが、説明が足りていないと思うので、どのようになっているかのご説明を行う方法を検討する。
	37	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			保護者の意向はしっかり聞くことができるが、子どもの意思はまだ表すことが難しい為、汲み取っているようしっかり日ごろから様子を観察していく。
	38	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	39	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
	40	定期的な、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
	41	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
	42	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
	43	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
非常時等の対応	44	定期的な、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
	45	定期的な、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
	46	定期的な、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
	47	定期的な、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
	48	定期的な、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	
	49	定期的な、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望に対して速やかな対応を心掛けている。	

50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			保護者への周知ができていなかったので、今後周知の方法を検討する。
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		毎日ヒヤリハットの確認を終礼で行っている。また、月ごとに集計して職員に共有振り返りを行っている。	ヒヤリハットであがった案件について同じことが起こらないような対策案まで全員で検討周知できるようにしていく必要がある。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	1	年一回の研修の実施 監視カメラの設置	身体的虐待だけでなく、心理的虐待にも目を向け、一人一人に平等に接しているかなど職員の意識を高める研修も行う。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1	契約時に説明を行っている	身体拘束について契約時に話をしていることを職員に周知できていなかった。また、身体拘束の定義も個々に違う認識があるようなので共通認識を行っていく。

事業所における自己評価総括表

公表				
○事業所名	てらびあぽけっと鶴ヶ島駅前教室			
○保護者評価実施期間	R7年 8 月 10 日 ～ R7年 8 月 31 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数)	30名
○従業者評価実施期間	R7年 9 月 2 日 ～ R7年 9 月 11日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 9 月 19 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別と小集団をバランスよく組み込んだ支援を行っている	リズムウォーク、はじめの会、小集団活動までの30分は小集団での活動の時間とし、同クールの児童との積極的な交流の時間になっている。また、個別課題の時間も30分あり、どちらのニーズにも対応できる内容で支援を行うことができる。	個々の集団での課題について、よりスモールステップで個別から小集団、小集団から集団へと段階づけて習得していけるよう課題検討を行っている。
2	大部屋は運動を行うために必要な十分なスペースが確保されており、ブランコなどの固定遊具もある。	固定の運動遊具だけでなく、手作りの感覚調整の道具も使用している。運動と就学準備を兼ねて廊下の雑巾がけレースをしたり、広さを利用した運動課題を工夫して入れている。	個々に合った運動課題の提案を行えるよう、より専門性を高める為の研修受講などに力を入れていく。
3	職員全員が国家資格保有者(作業療法士・言語聴覚士・保育士)で分野ごとに相談しやすい	それぞれの専門分野を生かした課題検討を行っている。また、全職員が直接支援を行うので、色々な視点でお子様の課題検討をしたり、保護者様からの相談を受けたりすることができる。	各専門性を生かしつつ、てらびあぽけっとのABAセラピーのスキルもしっかり高めてより専門性高い支援の実施ができるようにする。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	見学や保護者交流のニーズに応えきれていない	防犯上の理由で職員が全員セラピーに入るクールでは見学のご案内を行うことができていない。	事務所に職員が在中して見学できるクールは積極的にのご案内をして、開放できるようにしていく。保護者交流については、教室開放や、テーマを決めた勉強会など色々な方法、時間でニーズに応えられるように検討実施していく。
2	週一回利用の児童が多く、継続した支援が難しい	・送迎を実施していない為、保護者様が仕事を調整したり、園にお迎えに行かなければならないので負担が生じている。 ・契約時に空いているところでご案内する際、希望の枠がなく、まずは週1から始める方が多い。	体調不良などで欠席になった時には必ず振替をしていただけるよう、ご案内をしつつ、できるだけスポットも使いながら週1以上の利用をすすめていく。また、継続して通っていただくことのメリットをお伝えし、実際の支援の内容で実感していただけるよう、セラピー内容も整備していく。
3	保護者様からの情報提供に関するニーズに応えきれていない	近隣の事業所との連携がまだ少なく、放課後等デイサービスや幼稚園、就学後の進路について適切なアドバイスが行えていないと感じる	相談支援事業所との担当者会議に積極的に参加をしたり、各事業所の情報収集につとめ、的確なアドバイスができるよう努めていく。また、就学後のご様子について任意で卒所者にアンケートを取らせていただき、今後にご利用者様への情報提供の参考にしていく。各マニュアルなどは、置いてある場所を明確にし、閲覧希望の方に分かりやすくする。また、訓練等実施した際はアプリやおたよりで積極的に発信を行う。